

別記様式（第2条関係）

会 議 結 果 報 告 書

令和7年5月30日

会議の名称	第2回第二次志木市将来ビジョン等策定委員会幹事会
開催日時	令和7年5月7日（水） 14時00分～15時00分
開催場所	市役所3階 庁議室
出席者職氏名	深町行政管理課長、尾崎人事課長、伊東財政課長、 佐野市民活動推進課長、高山共生社会推進課長、 清水子ども支援課長、園原都市計画課長、松田政策推進課長、 川幡会計管理者兼会計課長、佐藤上下水道総務課長、 成田教育総務課長、神田選挙管理委員会事務局次長兼監査委員事務局長次長、小日向議会事務局次長 (計13人)
欠席者職氏名	(計 0人)
説明員職氏名	政策推進課 松田課長、柴谷主査、矢野主任 ランドブレイン株式会社 菅原、稲葉、三溝 (計 6人)
議 題	1 開 会 2 議 題 (1)第二次志木市将来ビジョン・将来構想（素案）について (2)その他 3 閉 会
結 果	議題(1)～(2)について、事務局より説明し、質疑応答を行った。 指摘事項を反映し、策定委員会に諮る。
事務局職員氏名	松井市長公室長、松田政策推進課長、柴谷政策推進課主査、 矢野政策推進課主任

会議内容の記録（会議経過、結論等）

1 開会

2 議題

- ・松田政策推進課長から(1)～(2)について説明し、内容について質疑応答を行った。

(1) 第二次志木市将来ビジョン・将来構想（素案）について

(委員)

資料1の17ページに「子ども・子育て支援」とあるが、「子ども支援」と「子育て支援」は異なるのか。

(委員)

「子ども支援」は子どもに対して、「子育て支援」は保護者・大人に対しての支援を行うものとしている。

(事務局)

前回の計画では子育て支援としてまとめていたが、こども家庭庁で「こどもまんなか社会」というキャッチフレーズが出された。子育て支援という親への支援だけでなく、子ども本人に対する支援にも注力していかなければならないという考え方が出てきた。

(委員)

子どもが生きやすいように、子どもの人権が守られ、住みやすいようにするという考えである。子どもを対象としていることが分かりやすいよう「子ども支援」という表現を提案した。子育てしている人も子ども自身も、両方を支えるという意味合いである。

(委員)

「地域社会」と「地域共生社会」の考え方について、資料2の施策の柱で「共生社会」という言葉が使われているが、福祉的な支え合いという意図を強く出すのであれば「地域共生社会」の方が適切だと思う。「障害のある人もない人も、男性も女性も外国人も誰もが等しく」という考えならば、「共生社会」の方が相応しい。

(事務局)

17ページの施策の柱は大きな方向性の内容であり、福祉的要素に収まらないため「共生社会」とする。

(委員)

13ページと15ページの「支え合い」の「合い」で、ひらがなと漢字の両方が

使われているが、これは間違いなのか、使い分けられているのか。

(事務局)

タイトルや方針等の強調箇所においてはひらがなを、本文の説明時には漢字を使用している。

(委員)

資料1の地方創生のコンセプトで「転入の促進」としているが、定住の促進は言及しないのか。地方創生は外から人を呼び込むことが主になると思うが、今住んでいる人にも住み続けてもらいたいという意味を持たせることも必要だと思う。国の地方創生では「人の流れ」にスポットを当て外から人を呼び込むとしているので、自治体同士の人口の奪い合いのような話になってしまう。

(委員)

転入促進は良いが、転出抑制も必要である。せっかく「住みやすい」という良いコンセプトがあるのだから、活かせないか。「住みたくなるような」は外から見た価値とを感じる。良い言葉使いがあれば良い。

(事務局)

人口ビジョンでは、転出の抑制については当然位置付けていく。転出抑制や出生率の向上も重要であるが、転入の促進を強く打ち出したいとの意見があったので、コンセプトとしてメリハリを出すためにもここでは転入促進を位置付けている。

(委員)

まちづくりのコンセプトに「情報が手に入る」とあるが、他に比べて印象が薄いと感じる。「必要な情報を必要なときに」「ターゲットを絞りその人に合った情報が得られる」ということを言いたい。「最適な情報」「その人にとって的確な」ということが表現できると良い。

(事務局)

検討する。

(委員)

「強靱で安全・快適な都市の構築」に「道路、水道施設、下水道施設」とあるが、他と同様に「上下水道」と表現して良いと思う。

(事務局)

修正する。

(委員)

20 ページの基本施策4に「4Rを推進する」とある。リユース、リサイクルはすぐに分かるが、他の2つはあまり知られていないので、注釈を書いた方が良いと思う。

(事務局)

検討する。

(委員)

資料1のまちづくりのコンセプト4つ目に「安全安心に暮らせるまち」とあるが、「安心安全」ではなく「安全安心」という順で決まっているのか。

(事務局)

安全を確保できることで安心ができるという考えで「安全安心」を使用している。国も基本的には「安全安心」の順で使っている。

(委員)

施策の柱は「安全安心」となっているが、コンセプトは「安全・安心」になっている。

(事務局)

統一する。

(2) その他

(委員)

資料2の13ページには「20～30歳代の若い世代の転入が多い」とあるが、資料3の17ページでは方向2で「20～40歳代を中心として転入が多くなっている」とあり、その後の推計と併せて整合を取るべきである。

(事務局)

整理する。

(委員)

資料2の13ページや資料3の17ページでは「20～30歳代の転入が多い」とあるが、資料3の17ページの方向1では「25～39歳を中心に一定の転出が見られる」となっており、矛盾していないか。

(事務局)

年代別に転入状況を見る場合20～30歳代の転入が多いが、25～39歳にかけては転入が多い反面、転出も多いためこのような表記となっている。表現を整理する。

(委員)

年号における和暦と西暦の使い分けは意図的なのか。

(事務局)

基本的に和暦表記であるが、人口ビジョンについてはこの先40年後まで考えなくてはいけないので併記を検討している。整理する。

(委員)

資料1の地方創生のコンセプトにデジタルとわざわざ書いてあるが何か意味があるのか。

(事務局)

【働く】【暮らす】【育む】【活躍する】全ての施策にデジタルを活用していく方向性を示す表現である。DXの推進で作業効率化を図り生産性を上げる、若者・子育て世代には子育てアプリを導入して予防接種等の情報をプッシュ通知で知らせるようにする、地域づくり・人づくり分野、農業分野等、全ての分野においてデジタル活用を推進していくため「デジタルの活用」が全コンセプトの記載に架かるよう縦に書いている。

(委員)

地方創生のコンセプトとまちづくりのコンセプトには違いがあるのか。

(事務局)

地方創生のコンセプトは、人口減少社会の中でも人口を増やしていくために国・県・市町村が共に設定しているものであり、【働く】【暮らす】【育む】【活躍する】の施策の推進を示す。将来像の実現に向けたまちづくりのコンセプトは志木市独自のもので、人口減少への対応だけでなくより良い暮らしやすいまちづくりをしていくために力を入れていく内容を示すものである。地方創生のコンセプトにより推進するまち・ひと・しごと創生総合戦略は、転入者の誘導策といった人口増加に直接関連する計画として、総合振興計画と差別化して策定する自治体もあるが、特に都市部では人口を増やすことと住みやすいまちづくりはイコールになるという考え方もあり、どちらの計画も方向性が共通していることから、一体の計画とする自治体も多くなっている。本市においても、人口増を目指すためには、より暮らしやすいまちづくりが重要であるとして、まちづくりのコンセプトを上位の概念におき、地方創生のコンセプトを要素として取り込んでいる。

3 閉会

備考 会議内容の記録には、発言者の立場を明記するとともに、発言の趣旨が容易に理解できるよう簡潔明瞭に記載すること。